

ミライの芦屋を
聞いてきました



FUTURE



NOW



PAST

芦屋市制施行80周年記念事業協議会の実行委員会であるASHIYA想創課のサポーター寺田 雄人さん、課長の古賀 美紅さん、秋田 琉成さんにこれからの未来や芦屋について聞いてみました。

デジタル化で見える人の温かさ

市Q)人口減少やAI等の台頭によって、時代の変化がとても速く、未来の予測が難しくなっていると感じますが、皆さんからはこの先の社会がどのように見えていますか？
寺田)これから先の社会は、AIが人に代わり多くのことをこなし、一部の人を除いて大半の人が働かなくていいような時代が来ると思っています。

秋田)ライフスタイルの中で多くのことがデジタル化され、家から出なくても完結できるようになるでしょうね。だからこそ、人と人が直接会うときのあたたかさを大切にしたい。直接人に会えないのはやっぱり寂しいから。
古賀)私は、今までの人生で、多く

つながりたい
大切なコト

ASHIYA想創課

秋田 琉成
寺田 雄人
古賀 美紅

の方からたくさんのお恩をいただいたと感じていて、それを返していきたい。人と人のつながりを大切にしながら、感謝したり・されたりする関係を大切にしたいです。
寺田)モノを持つたり、経済的に豊かになることより他人や社会とつながることに価値を見出している人が増えているよね。精神的な豊かさを大切にしたい。「つながり」がとても大事だと感じています。





ASHIYA 想創課 (あしやそうそうか)

芦屋市制施行 80 周年記念事業のコンセプト「これまでの芦屋と今の ASHIYA を未来につなぐ」を実現するため、「未来につながる関係性の構築」を目的に市内在住・在学高校生を中心に総勢 24 名で結成されたプロジェクトチームです。「想い」という言葉には、自らの「想い」(人間性)を大事にしつつも、相手の「想い」を尊重し、「創る」という言葉には、楽しみながら新たなことに挑戦するという意味が込められています。

ミライにおける 自分の役割

市Q) みなさんが「つながり」を大切にしている中で、社会に対し、将来自分は何のような役割を担っていきたいと思いますか？

古賀) 養護教諭。自分がお世話になった先生から得たものをつなぎたくて。しんどさを感じている子に寄り添えるようになります。

秋田) 学生が持つアイデアを生かすことができるような起業がしたいと思っています。ベンチャーキャピタルみたいな。理想を現実にするような人とのつながりをつくり、型にはまらないアイデアを企業や社会に出したいです。

寺田) 10 年後の未来が見えているわけではないけど、やりたいことが2つあって、ひとつは地域貢献。もうひとつは若い人たちに何かを伝えて

いきたい。その先に、関わったメンバーで芦屋のために一緒に何かができたらいいなあ。大金でなくともお金を稼ぐことができて、そこにちゃんと価値がある活動をしていきたい。



芦屋の存在・残したい価値

市Q) 皆さんが大切にしている価値観の背景にある「芦屋のまち」とは、皆さんにとってどのような存在ですか？未来に残したいものは？

古賀) 芦屋は高校生が活躍できる場が多くあるので、それを残してほしい。

と思います。

秋田) 自分にとって、一番落ち着く場所。住宅と緑と川で成り立っている、その魅力だけで十分なのは芦屋だけだと思います。梅田と芦屋なら芦屋を選びます。芦屋川の土手に座り友達とおしゃべりをする時間に大きな意味があると感じています。

寺田) 芦屋市民であることが、豊かな人間性を形成するための「旗」や「錨」みたいな感じかな。人生の山を登る上での目標であり、変な道にそれそうになったときに「芦屋市民だから」と、姿勢を正してくれるような錨だと思う。芦屋の価値として残してほしいのは「芦屋の人たちの人間性」なんじゃないかな。

市Q) 芦屋のまちで変えたいところはありますか？

秋田) 今を変えたくないかな。良い環境を残してほしい。

古賀) 変えたいところは思いつかないなあ。今の芦屋が好きです。このまま、のどかな芦屋のままでいてほしい。

寺田) 経済的な豊かさも大事ですけど、精神的な充足をもっと増やしていきたい。例えば、音楽のイベントだったり、市民が作った芸術系のアートだったり。そういった世界観が増えたらいいな。

山・川・海の自然がすぐそばにあつて、オシャレな建物も多いから視覚的に豊かだし、道行く人たちの気品が精神的なゆとりをもたらしているのでしょうかね…。それにしても、高校生がここまで芦屋で流れる時間を愛していることに僕も驚きました。

